



第19号

発行 平成21年11月28日

茨城県立図書館

ボランティア協議会広報委員会

文責 黒沢 英宣

# かがやき

## 目次



- 1 秋の読書フェスティバル開催
- 2 「ちちんぷいぷい」の語源は？ - 児童サ - ビス研修会・藤田浩子氏を迎えて -
- 3 外国語資料整理ボランティア訪問記
- 4 代読サ - ビスボランティア訪問記
- 5 国立国会図書館、その姿と役割 - ボランティア見学会を振り返って -
- 6 新ボランティアの声
- 7 ボランティア協議会からのお知らせ - 活動補助金の配分 -
- 8 編集後記



## 1 秋の読書フェスティバル開催



県民の読書に対する意識の高揚を図ろうと『いばらき読書フェスティバル2009』が11月1日(日)県立図書館及び三の丸広場を会場に開催されました。

読書週間(10/27～11/9)中に茨城県が11月に設定している「いばらき教育月間」の事業として行われたが、この「読書フェスティバル」です。主催は県立図書館などの10団体、水戸市など18団体が後援となって運営されています。「読書フェスティバル」は、県立図書館における最大級のイベントです。

当日は、北海道から雪の便りも届いてい

ましたが、茨城県は晴天に恵まれました。図書館正面のロータリーを中心とした古本フリーマーケットやバザー、三の丸広場に



は県産品販売コーナーなどが特設されました。10時からの開始を待ちきれない来場者も

多く、時間前から賑わいはじめ、午前中『完売御礼』の掲示をするブースもありました。

2階視聴覚ホールでは、10時から開会行事及び各団体・個人への各種の表彰式が実施されました。最年少での受賞となった、読書感想文コンクール『小学校低学年の部』で県知事賞受賞のかすみがうら市立宍倉小学校2年生 佐藤はるかさんが、優秀作品朗読者として登壇し発表を行い、入場者から大きな拍手を受けました。これに引き続いて「読み聞かせフォーラム」及び「記念講演会」が行われました。

3階会議室の『折り紙で遊ぼう!』は、新しいタイプの折り紙製作の会場でした。各種類の折り紙が作られていましたが、特に「帆引き船」は霞ヶ浦に浮かび、独特な漁法として茨城県を代表する風物詩の一つでもある、「帆引き船」をモチーフにしたユニークな折り紙であり、新鮮でとても印象的な作品でした。



三の丸広場の特設ステージには、県立図書館の「ブック・マーくん」、観光PRで全国漫遊中である「ハッスル黄門」、リサイクル推進PRの「イバライガーR」三つのマスコットキャラクターが登場しました。この3マス・キャラの揃い踏みは、子供さん達に特に人気を博していました。この三人トリオでの出演?は、『いばらき読書フェスティバル2009』以外では見られない特別なデモンストレーションになっていました。

1階「おはなししつ」では、10:30~15:

30まで、5時間フルタイムでの「おはなし会」が行われました。児童サービスボランティアメンバー多数の参加により、長時間にわたり、楽しい「おはなし会」をすすめることができました。

図書館ボランティア見学ツアー、館内探検ツアーも実施されました。日頃、図書館の裏方的な部分をあまり見ることはありませんが、このツアーにより、図書館への理解を深めていただくことができました。

「記念講演会」は、『文学作品の描き方』を演題とした「桜田門外ノ変」監督：佐藤純彌氏の講演と、脚本家：江良至氏、茨城新聞社常務：市村眞一氏、「桜田門外ノ変」映画化支援の会事務局長補佐：橘川栄作氏の3氏による鼎談がありました。「桜田門外ノ変」は水戸藩開藩400年記念として映画化されるものであり、視聴覚ホールには沢山の聴衆が集まり、今注目の演題に熱心に耳を傾けていました。

県立図書館のある、ここ三の丸地区を、今から約150年前に熱き心で闊歩していたであろう、水戸浪士の行動ををテーマに映画化されるのが、「桜田門外ノ変」であります。図書館ボランティアのみなさんの中にも、特別な想いを覚える人もおられるかと思えます。

この映画製作時には、千数百人のエキストラが必要になるとのことです。伝え聞かえるところによると、彦根市から800人のエキストラが来訪するとのこと。

150年前の徳川時代末期へ、タイムスリップしてみませんか?

2010年はあなたの銀幕デビュー?の年となりますよ。

丁髷姿?も似合うかもしれませんよ。エキストラにどうぞ!

〔広報 上原 富男〕



## 2 「ちちんぷいぷい」の語源は？

～ 児童サ・ビス研修会・藤田浩子氏を迎えて ～



今回は幼児教育 50 年のキャリア・独創的な保育資材の考案作成、数多くの著書を刊行されておられる 72 歳の元気いっぱい高齢者・藤田浩子さん（先生と呼ばれることを好まれない）をお招きして、9 月 5 日三の丸庁舎にて 2 時間半の大熱演を拝聴見学となりました。庁舎の閉鎖時間が午後 5 時でなかったら、何時まで延長となるかと思われたにぎやかで楽しい研修会でした。

さて「ちちんぷいぷい」は赤ちゃんをあやす時の幅広く用いられているものですが、この語源は春日局が三代将軍の幼児のおり、「智仁武勇」から幼児語に変革して用いたのが源だと言われているそうです。知りませんでした。

講師のお生まれは東京都、先の戦争中米軍空襲を懸念し、小学校 3 年の時、福島県三春に疎開し、中学 2 年までの田舎生活でした。その間、近くのおじさんから教えられた民話をほとんど記憶なさったそうです。三春方言による民話を 400 も記憶しておられる民話の宝庫といえる方です。独特のデザインの著書にこれらの民話を集めておられます。現在も保育専門大学で教鞭をとられておられ、最近の学生が「あやす」という言葉を知らなかった例を語られ、学生たちの顕著な日本語の語彙不足の面白い話などなさいました。学生の対幼児知識・対話習慣の欠如、同時に、若い母親と幼児、児童との対話内容などすべてが我が国でのテレビ普及後に大幅に子どもにとってマイナスに変化、変革してしまったと、語ってお

れました。確かにテレビ、パソコン、携帯電話・ゲーム機の時代では、日本人の日頃の言葉のやりとりが大幅に変化してしまったと申せましょう。ことに若い母親の言語感覚、これが生まれてからほぼ 3 年の母子生活において、昔とはかなり変わったものになっていることを、児童・幼児に接するボランティア個々はより認識する必要があるでしょう。冒頭、講師はオオカミ少年の話もなさいました。人間の幼児もオオカミに育てられると少年になって、いくら人間に戻るように教育しても成功例はなかったそうです。「すなわち人間が人間を育てないと人間にはならない」とも繰り返して話されました。「赤ちゃんの心に届く言葉」という表現にも感服させられました。

お手製の遊具、手話の模範演技、バンダナの応用、お手玉の歌遊びなど盛り沢山のご指導に児童サービスボランティア 27 名、他の部門ボランティア・外部参加者 34 名、図書館職員 2 名合計 63 名全員がときには子ども心に戻って、心から楽しく過ごした 2 時間半の貴重な素晴らしい研修会でした。

最後に、講師が何度も語られた、子どもたちが「ああ、楽しかった」と帰っていく子どもたちとの交わりに、出席者一同が精励したいと心を新たにしました。そして、次の我が国を背負う人材のよりよい成長を願うことだと、それぞれが、しみじみとした感懐をもって散会となりました。

〔広報 上條 哲〕



### 3 外国語資料整理ボランティア訪問記

外国語資料整理ボランティアの活動について、委員長の中川師夫さんにお話を伺いました。

#### 仕事の内容

##### 1. データシートの作成

○情報資料課よりデータの整理を要する資料(購入図書、寄贈図書など)が準備できた時点で連絡を頂き、書架に配架する前に、データシートを作成します。

主にタイトル及びその日本語訳、著者名、出版国、出版社、出版年月、言語名、ページ数そして本の内容などを記入します。出版社、出版年月などが解らない場合もあり、その時は「？」を記入しておきます。内容についての記述が一番大変です。タイトルの日本語訳は自分流に訳してつけます。以前は訳本があるかどうかチェックしていたのですが、検索に時間がかかるので今はしていません。

○閉架書庫を含めすべて館内に配架されている資料のうち、カナ表示や日本語タイトルが未入力のものについてデータシートを作成します。



##### 2. 外国語資料の推薦

○外国語資料の充実を図るためどのような資料を購入したらよいか、図書館から推薦を依頼されています。

本の推薦というのは難しい仕事です。普段からアンテナを張り巡らせておく必要が

あります。大使館の友人にお願いしてポルトガル語の資料を推薦してもらったこともあります。

##### 3. その他

○県立図書館内表示の英訳

○県立図書館ホームページの英訳

○県立図書館職員職場研修「実用英語研修」などの仕事をしました。

#### 活動人数

現在のところ二人です。希望される方もありますが、続かないことが多いです。活動中のメンバーは英語の他にフランス語、スペイン語ができます。図書館には英、独、仏の本が多いので、それらの知識のある方が参加してくれると助かるのですが、現在人手不足の状態です。

#### 他のボランティアとの協力・連携

協力してできることではなく、自分一人でやらなければならない仕事なので、ほとんどないです。

#### 仕事のペース

活動を始めた当初は時間もあり、多くのデータシートを作成しましたが、現在は余暇を楽しみながら、時間のあるときに活動しています。(ちなみに中川さんは、仏像彫刻、畑仕事、テニス、卓球など大変多趣味でいらっしゃいます)

この取材中に、活動参加希望の方がみえましたので、お話をうかがってみました。去年の秋に退職され、奥様がよく図書館にいらっしゃるので、ご自分もこの仕事に参加してみたいとのことでした。よき戦力にならればと思います。

最後に、現在データシート作成の必要な本の冊数について資料を頂きましたところ、英語の本 850 冊、フランス語 20 冊があり、まだまだ随時寄贈される本があるそうです。

以前は児童図書もたくさんあったのですが、これは割合短時間でできるので、全て作成済みとの事です。

特殊技能を使っただけのボランティア活動はいろいろありますが、外国語資料整理も県

立図書館には不可欠の重要なお仕事です。これからも息長く続けられて、在日外国人及び外国語資料を必要とされる方々の利便性を図って頂きたいと思いました。

〔広報 上野 清子〕



## 4 代読サ - ビスボランティア訪問記



「明るく便利な開かれた図書館」が、茨城県立図書館の目標ときいています。

視覚障害者にボランティアが、対面朗読を行っているのが、代読サービスのボランティアです。

平成 20 年度には延べ 86 回対面朗読の回数を数え活動人数も延べ 235 人になるそうです。

10 月の日曜日少し肌寒い日の午後、対面朗読室におじゃまさせていただきました。

視覚障害者に、2 人の代読ボランティアが辞書を読むサービスをしておられました。そこで生じた疑問にすぐに対応できるのが、対面でのメリットだと、強く感じました。この方は、日頃自宅にも近所のボランティアの人が朗読に来てくれるとのことでした。視覚障害者の知識欲が旺盛で、記憶力の良

いことに感服させられました。

出張朗読ボランティアもしたい、利用者の方の喜びの声だけで充分という代読ボランティアの声にも感心し、未熟な広報ボランティアの勉強になった 1 日でした。

〔広報 土屋 純子〕



## 5 国立国会図書館、その姿と役割

～ ボランティア見学会を振り返って ～



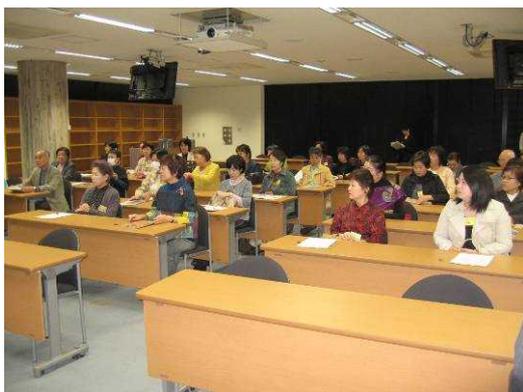
10 月 9 日（金）多数の希望者の中から抽選で選ばれた 33 人のボランティアは、午前 10 時 30 分、地上 4 階地下 8 階の威容を誇る国立国会図書館に到着。さっそく同館の「支部図書館協力課」永野係長他 2 人の

案内で本館とそれに続く新館を見学しました。

初めて見た案内用ビデオによると、当館は、昭和 23 年開館、現在は、上野に設立した国際子ども図書館などを所管し、納本制

度の実施により全国で出版されているあらゆる出版物を収集、デ - タベ - ス化しています。

館の主な機能は、多角的な情報の収集と保存 国会の立法作業に関する補佐 外部への情報サ - ビスの提供に大別できるとの事です。一日平均 1,500 人の利用者があり、利用者は入館時、パソコンにより



「館内利用者カ - ド」の交付を受け利用します。

蔵書数 3,600 万点、図書資料は国会議員

以外は貸出しはできないが、一般の人は有料でコピ - できます。正職員は 900 人、臨時職員等も多数勤務していましたが、ボランティア制度はありませんでした。

見学箇所としては、特に資料保存課において、図書資料等の劣化の実態や劣化の防止方法等に関し、実際劣化した展示物を見学しながら極めて詳細な説明を受けました。

さらに同課の図書資料修復室の作業風景を特別に見学させていただきました。ここでは洋装本 9 人、和装本 3 人の計 12 人体制で破損した図書資料の修復に当たっていました。

見学箇所としては、他に本館地下 8 階の広大過ぎる書庫をはじめ、人文総合情報室や新館総合サ - ビスカウンタ - などを 12 時 30 分まで見学し、帰途浅草に立寄り帰着しました。

〔広報 黒沢 英宣〕



## 6 新ボランティアの声



～ 対面朗読への思い ～

図書館ホームページでボランティア活動について知り、代読サービス対面朗読の一員となりました。

平成 20 年度対面朗読利用時間は、延べ 266 時間とのことでした。対面朗読の利用者が、来館手段の確保等にご苦労を伴う目の不自由な方や、高齢者であることを考えると、すごい実績だと思います。活動回数を重ねるにつれ、対面朗読の方々と利用者との間にある信頼関係に気がつきました。責任あるサービスを提供し、信頼関係を築いてきた努力があって、この結果が生まれたと感じています。

今まで、音訳テープ製作ボランティアとして、テープという媒体を介し、利用者と接していた私にとり、利用者との対話は経験することのなかった楽しい時間であり、利用者の要望を知る大切な機会でもあります。

今後、私も正確な情報提供と守秘義務の遵守を心に留め、利用者と信頼関係を築ける心のこもった代読をしていきたいと思っています。

〔代読サービス 中下 貴恵子〕

## ～ 読み聞かせをはじめて ～

私がこのボランティアを始めてから、約半年が過ぎました。普段は、大学に通って社会福祉の勉強をしています。そのため、なかなか絵本と向き合う時間は多くはありません。ところが、2週間に1度絵本に向き合うときは、まるで子どものように、これぞという絵本を選びだして、子どもたちに読みきかせることが私の楽しみになってきました。

図書館ボランティアになろうとしたきっかけは、自分が本を読むのが好きで、本の楽しさを子どもたちに伝えたい、児童クラブのボランティア活動や肢体不自由児通園施設で実習した体験があり、子どもたちとさらに関わりを持ちたいという思いがあったからです。

実際にボランティアを始めて、絵本の読み聞かせに聞き入っている子どもたちのまなざしが絵本のほうに向けられている様子を見ておきますと、子どもたちの集中力の鋭さというものを改めて感じています。そして、子どもたちに絵本のメッセージを私なりにどうやって伝えていこうかということを試行錯誤しながら、私なりのスタイルで読み聞かせできるようになることが今の私の目標です。

ボランティア活動中、感じさせられることは、先輩の方たちのそれぞれの個性ある演技スタイルを見ていると、とても勉強になり、感服することも多いことです。これから、素晴らしい、感心させられたことなどもっと、もっと参考にしていきたいと思います。

それから、私のように読み聞かせを始めて間もない方もかなり多いと思います。初心者の頃だからこそ、さらに読み聞かせのことを学んで、子どもたちが良い絵本に出会えるきっかけを作っていくことがより大切な活動だと考えます。ですが、なかなか学生の立場で参加できる研修の機会が多く

ないと感じています。そのため、学生でも参加できる日程を考えていただいて、ワークショップみたいなものがあれば、お互いの読み聞かせの良いところを切磋琢磨しながら伸ばしていけるのではないかなと考えます。

〔児童サービス 渡辺 陽香(はるか)〕

私がこの読み聞かせのボランティアを始めた理由は二つあります。一つ目の理由は、母が第二、四日曜班の上条さんと知り合いで、勧められたからです。二つ目の理由は、私は本がとても好きで、将来司書になりたいので図書館で行っている様々な取り組みに触れたいと思ったからです。

実際にボランティアをやってみて難しかったのは、子どもに聞かせるのにゆっくり読むことです。普段あまり声に出して読むことがなく、自分の読むペースに合わせてしまうのでどうしても早く読んでしまいがちになってしまいます。他にも、自分では短いと思って選んだ本が読んでみると長くて子どもを飽きさせてしまうことがあります。まだまだ私の読み聞かせには改善すべきことがたくさんあるので頑張っていきたいです。また、今の子どもは鋭くて、本の内容や挿絵などにも細かく突っ込んでくるので、もっと事前に本を読み込むなどして、子どもたちと会話が続くようにしたいです。

これからボランティアは、若者が取り組むべきだと思います。ボランティアには幅広い年代の人々が参加するので、年配の人から様々なお話が聞けていい勉強になり、将来にとってもいい経験になると思います。また、班によっては人手不足で悩んでいるところもあるようなので、他の班と交流したり、身近な人にもっと積極的に呼びかけるべきだと思います。

〔児童サービス 市瀬 早紀〕

## 7 ボランティア協議会からのお知らせ

### ～ 活動補助金の配分 ～

6月20日および8月29日のボランティア協議会において、平成20年度水戸西ロータリークラブからの支援金100,000円、茨城県看護協会からの支援金200,000円、及び従来からの収益金などの中から活動補助金の配分が決定しました。各ボランティア

分野への活動補助金配分の内訳は、下記のようになりましたのでお知らせします。

なお、11月4日に、平成21年度分活動支援金として水戸西ロータリークラブから、100,000円が贈呈されましたのでお知らせします。

児童サービス	50,000円
代読サービス	52,500円
図書修理	5,000円
広報	19,000円

### 編集後記

いばらき教育月間事業の読書フェスティバルは盛況に終わりました。さすがに年中2大行事、図書館側もボランティア一同も総力戦の一日でしたね。

国会図書館見学行は好評、提案者が抽選から外れたというハプニングを伴うこともあり、来年もぜひとの声が早くも聞こえてきました。児童サービス研修会は最高の盛り上がりで終わり、これもリピートの声が上がっています。水戸西ロータリークラブからは今年度もご高配を賜りました。私たちの活動に貴重な糧となりますことと、深く感謝申し上げ、一層、活動に精進したいものです。新顔ボランティアの実感の籠ったエッセーを掲載、新鮮味が加わりました。いよいよ新型インフルエンザがお出ましの頃となりました。従来のA型にもこの新型にもご縁を持つことなく、ボランティア一同が健康を維持しながら、大きな活動の夢と希望を持って、来年の国民読書年を元気いっぱい迎えましょう。

〔上條 哲〕

